

世界基準の品質管理へ お客様の变化に適応し 信頼を積み重ねる

株式会社ユニゾーン
代表取締役

梅田 雄一郎 氏



1955 (昭和30) 年11月の創業で、70年を迎えられました。

めっき研究に携わったことのある祖父梅田秀雄が会社を設立し、自動車のバンパーや機械部品のめっき加工を始めました。(株)富山鍍金工業所、(株)富山メッキと改称しながら、技術を磨き、確かな品質で信頼を積み重ねてきました。2代目の母ひろ美が会社イメージの刷新を図り、創業者が大切にしてきた「地域とひとつになって歩

む」の意を込め、ユニ(調和)とゾーン(地域)を合わせた社名で、オンリーワンの独自性を発揮するよう社業を発展させてきました。現在の取扱品目の状況はどのようになっていますか。

金属をはじめ様々な物質の表面に、用途に応じためっき加工・表面処理を行っていて、1mg未満の微小な電子部品から大型産業機械向けの9.5tの大きな筐体まで、50種類以上の表面処理に対応して

います。売上比率では産業機械向けが約60%、自動車向け約20%、電子部品約15%、その他多様です。

— 航空宇宙で新たな柱に —

2022年に航空宇宙産業の国際認証 Nadcap を取得されました。

めっき処理はあくまでもお客様のものづくりの一工程で、経済環境に大きく左右されるため、以前から新たな経営の柱を育てたいと考えていました。2010年頃から県が主催する航空機産業参入の研究会などに参加し、12年に航空宇宙向けの品質マネジメントシステム JIS Q 9100を取得し、さらに深い特殊工程を対象とした Nadcap を22年に取得して準備を進めてきました。売上高はまだわずかですが、新規引き合い件数は一番多く、航空宇宙分野は景気に左右されにくいので、力を入れていこうと考えています。

経営理念を「顧客の立場に徹し、品質至上を旨として創造を喜び感謝する」と掲げられています。

創業者から受け継ぐ理念です。毎朝、朝礼で唱和している「品質第一、生まれる信頼」「かけがえない地球、未来に残そうみんなの手で」という2つのスローガンも、創業者時代からの伝統です。

前社長はものづくり現場の“3K”イメージを払拭したいと、「感謝、感動、感性」の新3Kを打ち出して働く環境を整備しました。私はこれに数値的な品質管理、生産性の向上を目指す「科学的管理」を加え、“4K”として社内外に発信しています。

品質管理や環境対策について伺います。

社員一人ひとりが個性を生かして能力を発揮できるよう、社長に

就任してからQCサークルとTQM活動を強化しました。経営者協会の講師派遣制度で、講師の先生に2年間指導してもらい、良い転機となりました。業界団体の全国めっき技術コンクールに毎年参加していますが、技術も上がり、最高の厚生労働大臣賞に何度も選ばれるようになってきました。

また、社内スローガンにも謳っているように、SDGsなどの言葉もなかった時代から環境への配慮を浸透させてきました。めっき処理は化学物質を含む排水の処理が欠かせません。規制物質などの基準は常に厳しくなりますが、当社では早くから排水処理の設備を充実させ、環境マネジメントの認証も取得し、行政基準よりも厳しい社内基準を設定してきました。

— 個人の力を組織の力に —

2013年に3代目社長に就任されてから力を入られたことは。

より良い会社になるため、まず、社員同士が理解し合い、会社の現状も分からないと仕事も楽しくないだろうと、部門別の運営会議や、部門長・管理職を集めたミーティングなど始め、情報共有と相互理解の機会を意識的に作りました。と同時に、原価把握ができるよう製造ラインには数値化のための機

器類も投資し、自分たちの部門がどのくらい儲かっているのかを理解しながら改善点を考えてもらえるようにしました。

また、創業当初から自社配送を続けていますが、御用聞きのように担当営業がお客様の定期訪問と自社トラックでの配送を行い、お客様とのコミュニケーションを大切にしています。一方で、営業と製造、技術とのコミュニケーションに課題を感じていたため、デザインレビュー(設計開発検討会)を実装しました。営業の提案が技術的、コスト的に無理がないか、もっと良い提案ができないか、最初の段階から3者が一緒になって検討する仕組みにし、営業も自信を持った提案ができるようになりました。

良い組織が育っておられます。

地味なことをコツコツと続けてきたのですが、コロナ禍の時にいちいち指示を出さなくても自然と会社が動いていたのを見て、組織として力がついたことを感じ、コロナは大変でしたが、将来が楽しみにも思いました。

求める社員像はありますか。

自分の役割を認識しながら、いつも想像力を働かせましょと、管理職には言っています。手前味噌ですが、真面目な社員ばかりで

それが何よりもいいことだと思っています。ひょっとすると無意識にそういう人を登用してきたのかもしれませんが、思いやりのある人が一番じゃないですか。部下もついてきますし。

昨年、新しい人事評価制度を導入しました。プロジェクトチームが、専門のコンサルタントにも入ってもらって制度設計を作り上げました。社員が頑張れば頑張った分、報われる風土にしていきたいと思っています。

今後の展望をお聞かせ下さい。

当社の事業は黒子のような存在です。存続は発展の先にあると考えています。そして、発展とはお客様(環境)の変化に適応してお客様に満足いただくことで共に成長し、発展することができます。

年頭の挨拶では「品質管理を業界基準から世界基準にしましょう。個人の技能や知識を組織の力に変える年にしましょう」と訓示しました。これまで当たり前のようにやっていることに誇りを持ちさらなる向上につなげます。現在のお客様を大切にしながら、航空宇宙という高い舞台に立つことで、自分たちの手掛けたものが空を飛び、宇宙に飛び立つことが柱の1つとして軌道に乗れば、さらなる自信につながると思います。

会社概要

株式会社ユニゾーン

創業：1955(昭和30)年11月
所在地：富山市綾田町1丁目9番38号
資本金：7,650万円
事業内容：表面処理(めっき加工全般)、金属プレス加工
従業員数：192名(2025年10月現在)
売上高：31億1,864万円(2025年10月期)
事業所：アネックス工場、第8工場、上条金属加工部
URL：www.unizone.co.jp



「全国めっき技術コンクール 厚生労働大臣賞」を表彰

略歴

1973(昭和48)年富山市生まれ。関東学院大卒。薬品メーカー勤務などを経て、2003年(株)ユニゾーン入社、2007年代表取締役専務、2013年2月から代表取締役社長。富山県鍍金工業組合理事長等。